

栃木県指定文化財に指定することが適当とされた天然記念物	
種 別	天然記念物
名称及び員数	野木神社のイチヨウ 1本
所在の場所	下都賀郡野木町野木 2404
所有者の氏名又は名称及び住所	野木神社 下都賀郡野木町野木 2404
寸法及び形式等	樹高 23.4m 胸高 ^{きょうこう} (1.2m)周囲 8.6m(ひこばえを含む) 枝張り 東 10.0m 西 12.8m 南 10.4m 北 10.3m 推定樹齢 300 年以上
説 明	
<p>野木神社は、野木町役場の南西約 3.5 km、JR 古河駅の北約 2.5 km に位置する。</p> <p>「野木宮由来」によると主祭神は菟道稚郎子尊^{うじのわきいらつこのみこと}で、仁徳天皇の代に磁城奈良別君^{しぎならわけのみみ}が下野国国造のとき山城国菟道の聖廟を下野国笠懸^{やましらのくに うじ}の台手箱^{だいてばこ}の地に祠を建てて祀り、延暦年間(782～806)、征夷大將軍 坂上田村麻呂東征の時に現在地に移したとされる。</p> <p>近世においては、慶長 5 (1600) 年の奥州会津上杉景勝征伐の際、社領十五石を徳川家康から寄進され、その後、古河城主代々の厚い信敬を得ていた。</p> <p>野木神社のイチヨウは、拝殿前の参道東側にある御神木であり、昭和 52 (1977) 年に野木町の天然記念物に指定された。昭和 53 (1978) 年の大西風で主幹が地上 3 m ほどで折れた。折れた主幹は処分されることなく、イチヨウの傍らで丁重に保存されている。</p> <p>平成元 (1989) 年には、「野木神社のいちよう」として「とちぎの名木 100 選」に選ばれた。環境省の「巨樹・巨木林データベース」には、昭和 63 (1988) 年の樹高(目測)は 13m であり、大枝枯損、小枝枯損、頭頂部枝折れと記述されている。また、平成 2 (1990) 年に発行された『とちぎの名木百選ガイドブック』(栃木県、1990. 3)では、「高さ 17m、太さ約 9 m、県内のイチヨウでは最大の巨木である」と記述されている。</p> <p>平成 17 (2005) 年に樹勢回復事業(剪定・施肥)を行った。その時の計測では、樹高 20.0m、周囲 7.7m、枝張りは東側 7.5m、西側 10.0m、南側 7.0m、北側 10.0m であった。北側に傾いていた主幹上部は樹勢回復事業で切除された。</p> <p>平成 20 (2008) 年の『とちぎの名木 100 選調査報告書』((社)栃木県緑化推進委員会、日本樹木医学会栃木県支部)によれば、表層根(吸収根)が見られなかったため、調査に合わせて土壌改良が行われた。当時の石積みの高さは 1 m であった。また、露出根が数カ所あった。</p>	

令和 7 (2025) 年 10 月 21 日時点での計測では、樹高 23.4m、胸高 1.2m の周囲 8.6m(ひこばえを含む)、根元高 0.2m の周囲 8.1m、枝張りは東側 10.0m、西側 12.8m、南側 10.4m、北側 10.3m である。南東側 11m にある大きなケヤキを避けるように北西方向にやや傾いた卵形の樹形をしている。平成 17(2005) 年の樹勢回復事業当時と比較すると成長が見られ、樹形も整ってきており、安定した生育状況である。また、表層根もよく発達し、細根が多く見られ、安定した生育状況を裏付けている。平成 20(2008) 年の調査では、露出根があつて表層根が見られなかったが、今回の調査では、露出根がなく表層根が多く見られており、石積みの高さが 80cm となっていることから、平成 20(2008) 年からこれまでに、20cm 程度の覆土がされていると思われ、イチヨウの健全性に大きく寄与している。なお、このイチヨウは雄の樹である。

根元周囲の石積みは明治 32(1899) 年に設置されたが、その後土圧によりひびが発生したため、昭和 30(1955) 年に拡張し、現在は 8.1m 四方、高さ約 80cm の石積みがあり、参拝者による踏み固めを防いでいる。石積みの中には石柱としめ縄があり、参拝者が立ち入ることを禁じており、イチヨウの健全性を保つ一助となっている。

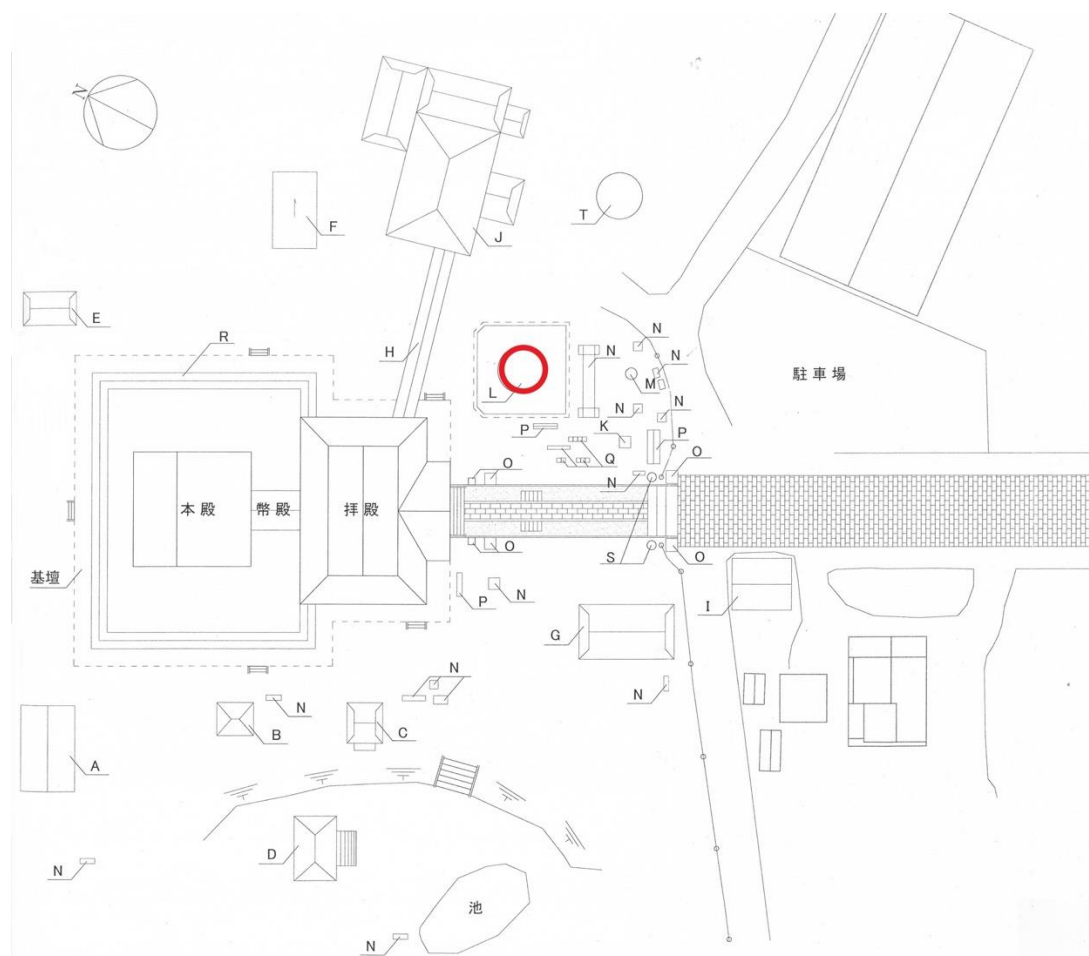
伝承では、このイチヨウは約 1200 年前に征夷大將軍 坂上田村麻呂が蝦夷討伐に成功し、凱旋の途中、野木神社に参拝し植樹したという。古文書等が残っていないため正確な樹齢は不明であるが、大きさや形状から数百年は経過していると思われる。環境省の「巨樹・巨木林データベース」では樹齢 300 年以上とされている。

枝の一部が垂れ下がる「乳」が多くあり、「婦人たちが乳が出て乳児が健全に育つように米ぬかと白布で作った模型の乳房で祈願する民間信仰」(町指定天然記念物標識より)がある。母乳が思うように出ない時、神社を参拝し、イチヨウの樹皮を削り取って煎じて飲むと乳が出るようになるというもので、イチヨウから無数に出ている「乳」が乳房のように見えることから、これにあやかり母乳がたくさん出るよう祈願するようになったとされる。御利益があると白い布に米ぬかなどをつめ乳房をかたどったものを奉納する。戦後は樹皮を削り取る行為は見られなくなったが、現在でも子どもの健やかな成長を祈願して乳型が奉納されている。

県指定の天然記念物として、これまでに 6 本のイチヨウが指定されているが、野木神社のイチヨウは、大きさ、信仰(御神木、「乳」の民間信仰)、管理状況(樹勢回復事業・石積み・覆土)を勘案して、県指定文化財として保護することが適当と考えられる。



位置図



配置図



野木神社のイチョウ全景（西から）



野木神社のイチヨウ（北から）



野木神社のイチヨウ（北西から） 乳が見える。



野木神社境内（南から 右奥にイチョウがある）



イチョウ前の絵馬掛けに吊された乳型の奉納品



石積み内の表層根



北側樹冠下の表層根